



読書活動への扉を開く！

No. 25

桑村小学校令和5年6月6日 文責 渡邊

「読み聞かせ」はとても大切ですね！

はじめに、保護者の方から寄せられた感想を紹介します。

『読書活動の扉を開く』5月30日号を読んでの感想

私は賢人・偉人の名言集がとても好きで、時間がある時は読み返したりしています。本を読むためには、集中力が必要だと思いますが、これらの本は名言とその解説が書かれているだけなので、端的でとても分かりやすいです。そして、心に残ります。ジャンルは違いますが、息子はプロ野球選手名鑑を読みあさっては、私に選手たちの情報を教えてくれます。はっきり言ってしまえば、私にとってはあまり興味のない内容ですが、野球が大好きな彼にとってはとても重要なことで、きっと彼は頭の中で色んな想像を膨らませているんだろうなあと感じました。

読み聞かせで物語を読み進めて行くと、難しい言葉や言い回しに出会います。そんな時、子供たちは「これ、なんていう意味?」「こういうことかな?」と自分で考える姿勢を見せてくれるようになりました。また、物語の登場人物の気持ちになって怒ったり笑ったり…中々読み聞かせが進みませんが、子供たちと共に考え、楽しむ大事なひと時です。（4年生保護者より）

「読み聞かせ」をご家庭でされている様子が伺え、とても微笑ましく思われました。「読み聞かせ」の大切さについて、『子どもたちに物語の読み聞かせを』（東京都立多摩図書館編・発行平成16年）では、次のようなことが記述されていました。

大きい子どもたちも、読んでもらうのが大好きです

幼い子どもたちは、大人に絵本を読んでもらって読書生活の第一歩を踏み出します。子どもたちは、家庭や保育園、幼稚園で、たくさんの絵本を読んでもらい、本が大好きになります。

ところが小学校に入学して字を覚えると、子どもたちは自分で読むように言われます。大人は、子どもたちが字を覚えれば、すぐに読めると思ってしまうのです。しかし、字を読めるようになることと、本を読んで楽しむことの間には、大きな違いがあります。文字を一つ一つたどって読んでいっても、生き生きとした内容は伝わってきません。自分の読める力量にあった本では、子どもっぽくてつまらないと感じます。あれほど好きだった読書から離れる子どももいます。本を読みなさいと強制されて、本嫌いになる子どももいます。

大きくなっても、子どもたちは本を読んでもらうことが大好きです。物語の本を読んでもらえば、子どもたちが楽しめる本の世界は、大きく広がります。

寝る前のひとときなどに、テレビを消してゆっくりと子どもに本を読んでみませんか？子どもにとって楽しみになるばかりでなく、親にとっても、子どものきずなを深める大切な時間になります。（※『子どもたちに物語の読み聞かせを』より）

本校では、月に1回「親子読書の会」を開催しています。6月は22日(木)を予定しています。どうか親子で参加していただきたく思います。よろしくお願いします。